ナットのいらない「ドリルねじ」を開発

ケーエム精工株式会社

ねじで社会の安全を下支え

普段、私たちが生活をするなかで、「ねじ」の存在を意識することは多くない。しかし改めて周囲を見回してみると、ねじが様々な構造物の基礎を支える、非常に重要な存在だとわかる。

ケーエム精工が製造するねじは、そのクオリティの高さから特に自動車や建築業界で高い評価を得ている。例えば自動車では、エアバッグやシートベルト等安全性が問われる部分を中心に同社のねじが採用されているのだ。

「社会の様々な局面において『安全』がキーワードとなりつつあります。安価な海外製ねじが国内に流入する一方で、当社に求められているのは、安全性を下支えできるだけの高品質なねじの追求だと考えています」と北井敬人社長。

ここで言う品質とはすなわち、いかに不良品を出さないか、ということである。1本のねじのゆるみや折れが、大きな事故につながることもあるのだ。

温間圧造技術で複雑な形状にも対応

同社が他社に真似のできないハイクオリティ製品の生産を可能にしている背景には、三つの要因がある。

一つ目は、蓄積された高い技術力。特に、設備の特殊さから国内では数社のみという温間圧造技術がある。約400℃の温度で鍛造を行う冷間と熱間のメリットを併せ持った手法で、ステンレスやチタンの金属特性を維持しながら複雑な形状の加工を可能にしている。

二つ目は、徹底した品質管理。「検査には他社の倍近くのコストをかけている」と北井社長が言うように、出荷前だけでなく、製造工程内にも性能検査を導入。また人材育成にも積極的で、熟練社員の指導の下、設定レベルに達するまで繰り返しOJTを行う「技能マップ」システムの活用により、社内の技術伝承にも努めている。

最後の要因は、顧客のニーズに合わせた商品開発力である。

20秒でねじ込める「M8ドリルねじ」

これまでは、建築物の構造材を締結する際に用いられていた溶接法は、作業者の負担が大きく、職人の技術によって品質にもばらつきが出てしまう。そこで同社が開発したのが、外径8㎜の「大径ドリルねじ」だ。工具によって簡単に構造材を貫通、締結できるうえ、ナットを使わないため作業効率が飛躍的に向上するとあって、需要が急増。平成19年6月には、厚板構造用として国土交通省の認定も取得した。

創業当時は、ナットの製造のみを行っていた同社だが、社会的ニーズを敏感に察知した新製品を開発することで、オンリーワン製品を持つ創造型企業へと変貌を遂げたのである。

「高品質のねじを通してしっかりと結ばれたお客さまとの信頼を裏切らないよう、社員全員がどんなニーズにも応える信念を持っていることこそが、最大の武器だと考えています」。

主な事業内容

自動車・建築・住宅用ナット、冷間温間・圧造パーツ、ドリルねじ、ドリリングタッピンねじの製造・販売 等

北井 敬人さん
代表取締役社長

ケーエム精工株式会社 Company Profile

住　所／〒578-0982
大阪府東大阪市吉田本町1-10-16
創　業／昭和34年10月
設　立／昭和47年10月
資本金／4,500万円
従業員／115名（平成21年1月現在）
ＴＥＬ／072-966-4466
ＦＡＸ／072-966-6677

ISO 9001
ISO 14001

大阪19

http://www.kmseiko.co.jp/

社長語録　地球環境保全のため、企業活動に留まらず永続的に環境負荷の低減に努めます。　北井敬人